

経済分析手法の開発 日本産業連関ダイナミックモデル(JIDEA)の構築(更新)と活用研究

1. 調査の目的

本年度は昨年度に着手した新モデル(JIDEA6)の開発を継続した。

新規モデル開発に着手する主要理由は、モデルで直近の経済構造の変化をよりよく再現するためである。具体的には、従来のモデルが1995年基準であったため、基準時点を最新の統計に合わせて2000年に変更する、モデルの予測精度を高めるためデータの信頼性に応じて部門数を見直す、日本経済の近年の構造変化を踏まえ、推計関数を見直す、ことを行った。

この結果、近年発表されている産業連関表(延長表)の部門数の制約もあり、部門数は100 66部門に圧縮することにした。

2. 調査結果の概要

本年度は、モデルの構築を終え、実際の運用に耐えるように幾つかのシミュレーションを行い、その適正を調べた。その結果、価格の変化が上手くトレースできていないこと、需要サイドの予測値において中間投入額を含めると生産額が一致しないという問題が存在すること、さらに2006年の一部予測値が跳ね上がるという問題点を発見した。

これらの問題点を解消するために、モデルの改善作業を続けている。

なお、2007年9月にはスペインで開催された第15回 INFORUM 国際会議で、新モデルの開発状況を「Building JIDEA6: Result and its Problems: Problems occurred in model building」として発表した。

モデルを利用した業績・報告書には以下のものがある。

賃金関数からみた日本の産業別給与 (季刊国際貿易と投資、2007 夏号)